

# 令和4年度 環境で地域を元気にする 地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業 キックオフミーティング 配布資料

活動団体名：みやざきSDGsプラットフォーム

活動地域：宮崎県

活動におけるテーマ

『地域と人の繋がりが作る「宮崎の豊かな未来」』

本事業への関わり：2年目

# 活動団体と地域の紹介

## 団体概要

国連が採択したSDGsの宮崎県内における普及啓発を図るとともに、民間企業、自治体、大学、経済団体、NPOなどと連携・協働してSDGsの取組を促進していくことを目的とし、2021年4月に設立された協議会。

## 地域の現状

豊かな森林資源を有し、第一次産業の盛んな地域であり食料自給率も全国トップクラス。観光資源も多く有しているが、情報発信が得意ではない。他の地方都市と同じく少子高齢化、人口流出が課題である。

## 地域の課題

エネルギーの地産地消（県外からの供給に依存）。交流人口の確保。次世代の育成等。

# 現時点の地域版マンダラ

- 地域課題
- 地域資源
- 事業内容
- 成果
- 担い手

**健康寿命の延伸**

未来都市が複数誕生する

社会課題を自ら解決しようとする若者が増える

若者や企業が共に地域の事を真剣に考える機会が増える

各個人が家庭・地域において多様にSDGsに取り組む

**地域資源**

産学官連携の土壌がある

マスコミ各社とのネットワークが構築出来ている

若者の教育に協力的な企業が存在

高等教育コンソーシアム宮崎

人と人の繋がりが強い

産業人財育成プラットフォーム

MSEC

**地域課題**

行政の取組への住民の関心が低い

空き家の増加

人口減少

企業と地域の距離が遠い

限界集落の増加

若者の流出

SDGs未来都市がない

街のにぎわい減少

高齢化

目標が定まっていない

コミュニティ機能の低下

生活機能の低下

マッチング機会がない

それぞれが多様に取り組んでいるがその集約・発信が出来ていない

ジェンダー平等への意識が低い

**成果**

SDGsに取り組む企業や連携事例が増加する

異なる世代や立場の人が交ざり合った協働事業が生まれる

**事業のタネ① 社会**

「持続可能なまちづくりとそれを担う人材の育成」

- 高校生・大学生・企業等が混ざり合った勉強会、交流会、ワークショップ等の開催
- マッチングの機会提供
- 国内外の多様なモデルの実践者との対話

担い手  
みやざきSDGsプラットフォーム/自治体

**地域課題**

外貨獲得が少ない漏れバケツ理論

域内の経済循環が出来ていない

観光入れ込み客数・消費額が少ない

**事業のタネ② 経済**

**ローカルだからこそ実現できる  
新たな価値と持続可能な未来**

**事業のタネ③ 環境**

「地域の資源を活かした観光による持続可能な経済循環と外貨獲得」

- 先進的事例の紹介、学びの機会提供、地域間の繋がりが創出、情報収集・発信

担い手  
旅行者/交通事業者/農家/観光協会

「エネルギーの高度化・バイオマスや食品残渣の有効活用」

- 普及・啓発にむけた情報収集、勉強会、視察、マッチングの機会提供、協力・支援

担い手  
みやざきSDGsプラットフォーム/地元企業

**地域課題**

数値の見える化が出来ていない

地域資源を活かしきれていない

農業における環境負荷が高い

森林の再造林が進んでいない

耕作放棄地の増加

**地域資源**

豊富な観光資源（体験・自然がある）

多くのブランドを持つ農林水産業

魅力的なスローツーリズムを実践する  
県内企業が存在

精神的・身体的休養が取れる

サーキュラーエコノミー

廃棄物の資源化

魅力的なスローツーリズムが実施される

持続可能な経済循環を支える人材が育つ

エネルギーや資材等の域内調達による資金の域外流出抑制

地域各ステークホルダーの連携による経済循環の確立

関係人口の増加

環境を支える人材が育つ

**成果**

地域資源の消費拡大

外貨獲得

雇用拡大

**地域資源**

豊富な農林水産資源

豊富なバイオマス・太陽光・太陽熱

生産性の高い林業

地域電力

鶏糞発電や食品ロスエコフィードに取り組む（ノウハウを持つ）地元企業が存在

# 活動計画（概要）

## 地域プラットフォームを形成して 解決したい地域の課題

- ・豊かな地域の天然リソースがありながら十分な活用・情報発信ができていない。
- ・県外への若者の流出が止まらない。地元へ残りたいと思えるインセンティブが少ない。

## 地域のありたい未来

- ・宮崎県内の天然リソースが有効に活用され、基盤産業の一角を形成している。
- ・進学、就職等で一旦県外へ移住しても、帰りたいと若者が考えた時の受け皿づくり。

## 環境整備を通して構築する“地域プラットフォーム”のイメージ（体制、機能、規模感、等）

- ・2021年度に設立したプラットフォームをベースに、正会員（団体）と活動登録団体（個人・団体）を120~200%程度増加させるレベル。
- ・会員メンバー相互の情報共有を強化し、事業の種を支え合える仕組み作りに取り組む。

## 想定している資源（ヒト、モノ、資金、情報、等）※地域内、外も含む

- ・会員内の金融機関や事業所、教育機関、行政機関を繋ぎ、実現可能な案件に関してはプロジェクトチームを編成できるような体制づくりが必要だと考える。必要であれば競争的資金等の申請等も考慮する。

# 目指す“地域プラットフォーム”のイメージ

2023年3月 1年後のみやざきSDGSプラットフォームのイメージ



※ 協議会内部での事業のマッチングが行われる環境を整備。人材育成のプログラムが複数実践されている。

←新たに<sup>ステークホルダー</sup>加わってほしいSH

2021年度で、宮崎県内の殆どの事業者団体は加入しており、新規での加入は教育機関、中間支援のNPO、そしてやる気のある自治体を増やす程度で、活動登録メンバーを倍増したい。

←想定している課題・阻害要因

- ・ 会員に登録していても何を行えばいいか理解できていない会員がいる。
- ・ 地縁組織・各種団体のSDGsに関する認識が不足している。
- ・ 活動登録メンバーの登録メリットが分かり辛い。

# 地域の「ありたい未来」を実現するために何をするか

## 地域のありたい未来

- ・ひとりひとりが「自分ごと」としてそれぞれに出来ることに取り組む土壌を築く
  - ・SDGsを原動力とした地方創生や人材育成を推進する。
  - ・パートナーシップに基づいて連携して行動する環境を醸し出す。
- ※ 上記の3テーマを柱に、協議会の活動が活性化し、地域に複数の事業が動いている。

地域のありたい未来を実現するために、中長期的に見て必要な取組や仕組みは何か

- 協議会の中で、実現可能な事業を立ち上げるための分科会（作業部会）を設置。出来上がった事業を実現化するためのプロジェクトチームの研究を踏まえ、協議会の会員相互、または必要な外部組織とのマッチングを促進させる。
- ※ 一度に複数の事業を実現させる必要はなく、協議会内での議論を経て優先順位を確認したうえで、実現可能な取組みを応援する体制を構築していく。

## 今年度取組みたい事（本事業でチャレンジしたい事）

- ・持続可能なまちづくりとそれを担う人材の育成
  - ・地域の資源を活かした観光による持続可能な経済循環と外貨獲得
  - ・エネルギーの高度化・バイオマスや食品残渣の有効活用
- 3テーマの作業部会を立ち上げ、事業を推進するための検証およびマッチング

